

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護・管理学科(3年制) 動物看護専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生命倫理・動物福祉	働く犬について理解を深め、人と動物の関係を学ぶ	1後	30		○			○			○	○
○			動物形態機能学Ⅰ	小動物の体の構造と機能を理解する	1通	60		○			○		○		
○			動物繁殖学	主に犬の繁殖生理を理解し性周期・疾病予防について理解する	1通	30		○			○			○	○
○			動物行動学	犬の行動学を学び、適正使用と正しいしつけを理解する	1通	30		○			○		○		
○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ	1前	15		○			○		○		
○			動物看護学概論	動物看護学倫理・概念、動物看護過程について基本を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			動物感染症学Ⅰ	犬・猫に寄生する寄生虫について理解し予防と看護に活かす	1前	45		○			○			○	
○			公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し社会一般への疾病予防を目的とする	1通	60		○			○		○		
○			動物内科看護学Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な知識を学ぶ	1通	45		○			○		○		
○			動物臨床検査学	臨床検査学実習に向けて、検体検査概論を学ぶ	1前	30		○			○		○		
○			愛玩動物学	犬・猫以外の小動物について適正飼育と主な疾患を理解する	1通	60		○			○		○		
○			人と動物の関係学	犬・猫の新生子から老齢までの各ステージの総論を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			動物生活環境学	人とペットとの共生のための生活環境のあり方を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			ペット関連産業概論	動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			動物内科看護学実習Ⅰ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	1通	60				○	○		○		
○			動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査に必要な手技や機器の扱いなど実践力を修得する	1後	30				○	○		○		
○			動物愛護・適正飼養実習	愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する	1通	60				○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅰ	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	1後	45				○		○	○		○
○			特別授業Ⅰ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	1通	150			○		○		○		
○			動物栄養学Ⅰ	犬猫に必要な栄養素・ペットフードと療法食の基本的知識を学ぶ	2通	30		○			○		○		
○			動物形態機能学Ⅱ	小動物の体の構造と機能を理解する	2通	60		○			○		○		
○			比較動物学	日本の野生動物や実験動物の品種、飼育管理法、実践動物との関りについて学ぶ	2通	60		○			○		○	○	
○			動物看護関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学ぶ	2前	15		○			○		○		
○			動物感染症学Ⅱ	発生機序、原因となる病原体について理解し予防の大切さを伝える	2通	45		○			○		○		
○			動物内科看護学Ⅱ	臨床検査学実習に向けて、生体検査概論を学ぶ	2通	45		○			○		○		

〔文化・教養専門課程 動物看護・管理学科（3年制） 動物看護専攻〕令和4年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物外科看護学Ⅰ	術前検査に関する意義・外科手術前後における基本的な知識を習得する	2通	30			○	○		○		
○			動物臨床看護学各論Ⅰ	主に犬・猫の疾病罹患や看護援助を理解する	2通	60	○			○		○		
○			動物医療コミュニケーション	クライアントコミュニケーションの習得を目指す	2後	30		○		○		○		
○			適正飼養指導論Ⅰ	愛玩動物の効用や飼養目的を理解した上で、適正飼養の推進活動を学ぶ	2通	30	○			○		○		
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	2通	30			○	○		○		
○			動物内科看護学実習Ⅱ	生体検査に関する意義・基本的手技を身に付ける	2前	60			○	○		○		
○			動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔監視など動物外科学で学んだ知識の実践力を習得	2後	45			○	○		○	○	○
○			動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査に必要な手技や機器の扱いなど実践力を修得する	2通	30			○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅱ	動物病院で看護実践を学び、病院内業務の補助を行う	2後	45			○		○	○		○
○			特別授業Ⅱ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	2通	200		○		○		○		
○			動物栄養学Ⅱ	犬猫に必要な栄養素・ペットフードと療法食の基本的知識を学ぶ	3通	30	○			○		○		
○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	3通	30	○						○	○
○			動物薬理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	3通	60	○			○			○	○
○			動物外科看護学Ⅱ	各疾患ごとの外科に関する基礎知識から、安全な手術の実施に必要な知識を習得する	3通	30	○			○		○		
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の流れについて看護上の問題点を明確にする	3前	30	○			○		○		
○			動物臨床看護学各論Ⅱ	各々の機能障害をもつ動物に対し評価と介入を修得する	3通	60	○			○		○		
○			適正飼養指導論Ⅱ	災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて学ぶ	3通	30	○			○		○		
○			動物外科看護学実習Ⅱ	救急救命時に必要な機材や薬剤の準備、症状に合わせた実践力を修得する	3前	45			○	○		○	○	○
○			動物臨床看護学実習	基礎で習得した内容を基に実践能力に応用力を用いる	3通	60			○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅲ	病院内業務の補助を行い臨床現場でチーム医療の一員としての実践力を修得する	3後	90			○		○			○
○			特別授業Ⅲ	学校行事、特別セミナー、卒業生講話など他者との関わりを重点とする	3通	350		○		○		○		
○														
○														
合計				46科目	2,500単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①成績評価すべてC評価以上 ②出席状況 年間90%以上 【履修評価】 評価は原則として科目ごとにその前期・後期終了時で其々の評価をする。 評価は、平日の授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、期末試験等によって行い、原則として絶対評価とする。 【学業成績】 ①成績評価は原則として科目毎に前期・後期終了時に確認テスト・課題提出・科目試験・検定試験などによって絶対評価で行い、授業態度や出席状況も加味したうえで評価する。 ②成績評価は点数によりA・B・C・Dの4段階をもってこれを表し、Dは不合格とする。ただし、D評価の学生には追試や課題提出を行い学習の機会を与える。 【卒業】 本校に在学し、3年間の出席時間が2,400時間以上履修し、かつ、卒業基準検定を取得し成績評価がすべてC以上の者に卒業証書を授与する。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	26週
（留意事項） 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			